

一般社団法人朝霞地区薬剤師会

あさやくだより

第14号



(一社)朝霞地区薬剤師会

発行人: 広報委員長 細川 玄機

〒351-0021朝霞市西弁財1-10-21-312号

TEL:048-483-4125 FAX:048-483-4126

asaka-ph@asakaph.or.jp

会長挨拶

コロナワクチン集団接種支援事業が11月でいったん終了しました。バタバタと3回目のワクチン接種が決まり、市によっては2~3月に再支援の依頼が来ていますが、ここまでの経験をもってすれば何とかできるように思います。

当初は、薬局の薬剤師が注射を扱うことに不安の声もありましたが、在宅無菌調剤や病院薬剤師経験を持つ薬剤師が中心となって、手順やマニュアルを整備し、研修と経験があれば誰でもが手技を身に付けられるようになりました。むしろ進むに従い、この作業は薬剤師の本領を発揮すべき本来の調剤業務であると考えようになりました。調整された注射液の力価は確認できないので、誰がどのように調整したかが重要になります。保管、解凍、希釈、充填の一連の流れには、注意すべきピットフォールがいろいろありました。

当地区では、リーダーが日替わりとなるため、メールで情報を共有しながら常に作業を見直しました。希釈ミスや充填ミス、無駄な廃棄がニュースにもなる日々で、関わるみんなが神経をすり減らす中、調剤過誤が発生しない手順を更新しながら進めたことは大きな成果と言えます。当地区は、医師、歯科医師、看護師、行政など、もともと良い連携がありましたが、ますます信頼が厚くなったと感じています。

一方で、埼玉県内には薬剤師がかかわらなかった地域も多くあるようです。今回の活動を通して、医療のある所に薬剤師は無くてはならない職種である、ということを再認識しました。将来薬剤師は余る、という話をよく聞きますが、本当は薬剤師はまだまだ足りないのかもしれない。

(会長 畑中 典子・株式会社かくの木)

院外処方箋における疑義照会に関する同意書の締結

この度、独立行政法人国立病院機構 埼玉病院と「院外処方せんにおける疑義照会に関する合意書」が締結されました。

本来、後発品や併売品、複数の剤形や規格など薬の品ぞろえが増えることは、患者さまにとってより良い治療に繋がるはずなのですが、現状では、その度に疑義照会という手間が発生します。今回の合意書は、その手間を少しでも減らすことに繋がります。詳細は、別紙として挟み込みました。また、朝霞地区薬剤師会のホームページでも公開しました。

疑問や質問はメールで受け付け、病院と協議のうえでQ&Aとして順次公開していく予定です。

(埼玉病院長 原 彰男先生と
畑中 典子会長)

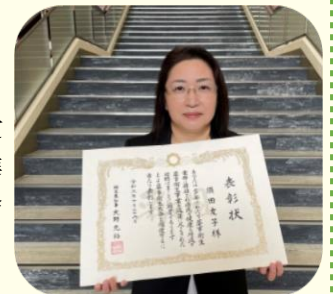


第49回埼玉県薬事団体連合会

「県知事表彰」

10月26日に埼玉会館で開催された「埼玉県薬事衛生大会」において、副会長・新座志木支部長の須田友子理事に「埼玉県知事表彰」が授与されました。薬剤師として、また朝霞地区薬剤師会理事として、県民・市民の薬事衛生向上のために貢献してきた功績を称えるものです。

新座市では、平成9年より学校薬剤師、また、介護認定審査会委員や健康づくり推進協議会委員、地域医療協議会委員などを務めてきました。おめでとうございます。



埼玉県薬剤師会学術大会

「埼玉県薬剤師会賞」

第27回 埼玉県薬剤師会学術大会
メインテーマ 薬剤師への期待 ~輝ける未来のため



11月3日開催の「埼玉県薬剤師会学術大会」において、朝霞支部会員の藤原艶子さんに「埼玉県薬剤師会賞」が授与されました。

昭和45年から約25年間朝霞地区において、薬局開設者・管理薬剤師として、また、学校薬剤師として44年間の長きにわたり市民の薬事衛生向上のために貢献を続けていることに対し、その栄誉を称えられました。

おめでとうございます。

朝霞警察署から

「感謝状」いただきました。

平成28年に設立された朝霞・新座警察署テロ対策「彩の国」ネットワークへの参画と、今年開催された東京2020オリンピック・パラリンピック射撃競技におけるテロ防止対策に貢献したとして、朝霞警察署から地区薬剤師会に感謝状が授与されました。

和光市オリンピック・パラリンピック競技大会推進委員を務めた内野裕嗣理事(さつき薬局)が、11月17日、事務所で朝霞署松本警備課長から、賞状を受け取りました。ありがとうございました。



ワクチン集団接種事業

新型コロナワクチン集団接種を終えて ～ 他業種との協力作業のなかで感じたこと

朝霞地区医師会理事 青柳 徹二

朝霞地区では、令和3年5月より65歳以上の方々から新型コロナワクチンの個別接種が、そして6月からは総合体育館と産業文化センターで集団接種も始まりました。東京2020オリパラを控え、早く安全に接種を進めるために薬剤師会、看護師、准看護師学校、市職員、派遣スタッフの皆様にも多大なご協力をいただき、11月末までに対象者の8割以上の接種を終えることができました。本当にありがとうございました。

他の地域では集団接種事業を専門業者に全て任せるケースも多いようですが、我々は試行錯誤しながら一から作り上げてきました。そのなかで私が感じたことを以下に記してみました。

- ① 希釈、分注業務を薬剤師の方々に任せて正解だった。
(看護師が接種、接種後の観察業務に集中できた。)
- ② ミーティングの重要性。
(各部門での注意事項の共有が大事。私は毎回ほぼ同じ内容を繰り返し話していましたが…。)
- ③ 他業種との良好な関係は医師の態度がカギ。
(ミスをしたら医師に怒られると思い萎縮してしまうスタッフが多いようです。医師も小さなミスを結構やら

かすものです。皆に優しく接することが特に集団接種会場では大事です。)

④ 改善案がでたらまずやってみる。

(准看護師学校の長谷先生や市職員がほぼ毎回会場のセッティングを少しずつ変えて安全な接種に努めてくれました。これによって血管迷走神経反射に伴う事故をかなり予防でき、また妊婦さんや子供が安心して接種を受けられたと思います。)

薬剤師の方々には本来の業務の合間に接種後の観察などをお手伝いいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

第三回目の新型コロナワクチン集団接種があるか否かはわかりませんが、もし行われる場合にはまたご協力をお願いするかも知れません。よろしくお願いたします。



ワクチン支援における連携と協同

朝霞准看護師学校副校長 長谷 利子

朝霞市で集団接種が6月から始まりました。看護師はワクチン接種の「打ち手・救護」として支援の要請がありました。開始当初、接種に関わる職種の方々のほとんどの方が初めての経験でした。支援に来た看護師も「何をしたらよいですか」と戸惑っていたことを思い出します。薬剤師の役割も薬剤管理、希釈・分注業務が中心でした。高齢者から若年者、妊婦、小児と接種対象が増えていくごとに、問題や課題が次々と生じ、集団接種の事業後に職種間の連携について統括医師・薬剤師の大八木先生・市のワクチン担当の方と何度も話し合いました。また、「安全に安心して接種を受けてもらうこと」を一番と考え職種間の連携や急事の際の動きを確認し、薬剤師の方々にも救護活動に携わっていただきました。

日曜日には900人の接種者が来場し、体調不良者が発生すると、不安による集団ヒステリーが度々起こり対応に追われました。医師、看護師と薬剤師が協同し、不安が強い接種者には寄り添うことを実践しました。今回多くの薬剤師の先生方と協同し、先生方の医療活動への積極的な関わりと、使用薬剤に関する助言、セルフメディケーションのサポートなど多岐に渡る支援をいただき、接種会場の円滑な運営ができました。

ワクチン支援を通し、医療従事者としての協同、作り上げたチーム連携から生まれた強固な信頼関係、助け合える関係性は地域の健康及び医療を支えるために今後も継続していきたいと願っております。



事業に参加して

ワクチン接種事業への参加は、最初は不安ばかりでしたが、薬剤師の皆様から多くのことを教えていただきとても勉強になりました。貴重な機会をありがとうございました。

特に、総合体育館で参加した経過観察では、分注作業だけではわからない接種全体の流れが理解でき、他職種の方と関わったことも良い経験でした。会場に来られる方の中にはワクチン接種に対して不安が強い方もいて、接種前に泣いてしまう方もいます。そういう方への看護師さん達の接種前の声かけや経過観察時の対応がとても素敵で、それを近くで見ることから多くのことを学ぶことができました。

日々の薬局業務の中でも、不安や心配を抱えて来られる患者さんへの声かけや服薬指導にぜひ活かしていきたいと思っています。
(堀川 真利子・新倉健康薬局)

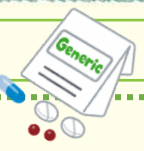
医療人ということで優先的にワクチン接種させていただき、それを何らかの形で還元したいという思いからワクチン接種事業へ参加させて頂きました。

慣れない中で、とにかく間違えないように気を付けながらの分注業務でした。会場での接種者の経過観察では、体調が優れなくなる方に看護師さんとともに対応し、薬の質問をされた方には薬剤師として誠意を持ってお答えしました。こうした支援業務の中で、多職種との医療連携を感じることができ、様々な職種の方に助けられ、大きな事故がなく終えることができたこと、貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。

今回のワクチン接種事業にチーム医療の一員として参加させていただいたことを光栄に思います。

(早川 裕貴・あおい調査委薬局志木北口駅前店)

研修会報告



災害薬事研修コース (PhDLS) 標準 (プロバイダー) コースに参加して

アトム薬局は、地域の保健室を目指して様々な取り組みを行い、最近ではコロナワクチンの大規模接種会場の手伝いにも参加しました。その手伝いを通して、災害時のチーム医療において薬剤師として行える事を更に増やすため、今回の講習で災害医療について勉強したいと考え、受けることにしました。

講習会では、薬剤師として災害医療の時に知って欲しい心得、薬剤師も知っておきたい専門用語などを学びました。例えば、トリアージでバイタル測定の確認を行う際に法と絡めて行って良い事、法的にダメな事も学べて勉強になりました。

日々の業務で健康相談があった際、OTCで対応可能か、

医師への受診勧奨が必要か否かの判断を行いながら販売しておりますが、この業務は、災害時のトリアージにつながる業務なのだと感じました。

コロナ禍のため人が集まるイベントはまだまだ出来ませんが、集まれるようになった際は今回の講習を生かしていきたいと思います。

地域に根付くアトム薬局になれるよう地域の皆様向けに災害時の対応やAED講習会を通じて災害時にできることを地域の皆さんと作り上げて行きたいと思っています。



(災害対策委員 江口 武幸・アトム薬局)

埼玉病院薬業連携研修会



11月18日、国立埼玉病院にて「薬業連携研修会2021」が開催されました。

昨年度に続いて2回目の開催で、平日の18時半からでしたが地区の多くの薬局薬剤師が参加しました。薬剤部長 宮下久徳先生の開会の辞に始まり、外来化学療法室室長 腫瘍内科部長の野崎由美先生座長のもと、「関節リウマチについて」を血液・膠原病内科部長 杉山海太先生、「血液内科の化学療法について」を血液・膠原病内科 大竹志門先生から講演がありました。お二人の臨床医の先生からは普段中々聞くことができないリウマチやリンパ腫の治療に関して、発症の背景や治療薬選択肢、副作用経過観察ポイント等に関し、具体的なご講義を頂きました。

最後に薬剤部龍島靖明先生より「特定薬剤管理指導加算報告の現状について」、令和2年度の診療報酬改定より開始されましたハイリスク算定2の現状を伺いました。薬局からのアフターフォロー、病院薬剤部、医師への報告、次回来局時の処方変更につながるまでの実例を提示頂きました。薬剤師として確かな知識を持ち、患者様の声に耳を向け医師へつながり、重要な業務がこの「特定薬剤管理指導加算」に込められていることを改めて認識した研修会でした。

(石田 理香・かくの木菅沢薬局)

TMG医療センター薬業連携研修会



11月20日、「外来がん化学療法に関する情報交換会」が開催されました。病院からは薬局長や担当の薬剤師、がん化学療法認定看護師の方々が参加され、外来化学療法室の紹介や、病院薬剤師の役割、患者様来局後の流れやレジメン管理などについて教えていただきました。

連携のための取り組みとしては、化学療法に関する報告書が患者様に渡されます(お薬手帳を持参されている方は手帳に貼付)。

報告書に記載される内容は、①実施しているレジメン、②クール数などレジメンの実施状況、③抗悪性腫瘍剤等の投与量、④副作用の発現状況、⑤備考の5点です。

備考欄には直近の入院歴や、投与中止歴(理由も含め)などが記載されます。

薬局の薬剤師としては、報告書があることで患者様の状態が把握しやすくなり、副作用対策に関するポイントなどをお伝えする際に役立てられています。軽微な症状も見逃さず副作用に適切に対処していくことが、効果的な治療の継続につながっていくのだと感じました。

今後も病院の方々と連携しながら、治療をサポートできるよう努めていきたいと思っています。

(広報委員 酒井 清貴・なぎさ薬局あさか店)

朝霞地区薬剤師会ホームページをご活用ください。

薬剤師会のホームページでは、研修会案内など、皆様に役立つ情報をたくさん掲載しています。会員専用情報には、医薬品情報、学校薬剤師の皆様専用の情報などもあります。会員には随時メールで更新情報が配信されます。メールの登録を忘れずをお願いします。



左のQRコードから、または、「朝霞地区薬剤師会」で検索してご覧ください。

朝霞地区薬剤師会



事務局パート職員募集中



現在、朝霞地区薬剤師会事務局のパート職員を募集しています。勤務場所は朝霞台駅から徒歩1分。仕事内容は、書類作成やメール対応等パソコンを使う作業と電話の対応になります。詳細については、事務局までお気軽にお声掛けください。

TEL:048-483-4125

E-mail: asaka-ph@asakaph.or.jp

おすすめの本

言語学バーリ・トゥード Round1
AIは「絶対に押すなよ」を理解できるか

川添愛著 (東京大学出版会/2021)

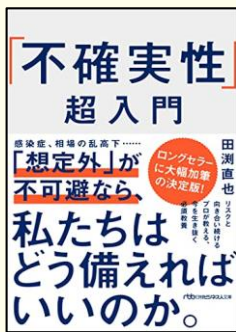


2021年11月20日付の日経新聞で、大学の出版社が一齐に広告を出しているのですが、東京大学出版会はよりもよってこの本を一点推しています。中身は、短めの軽いエッセイです。著者は言語学者なのですが、プロレスファンでもあるそうで、そういう話題も多く、僕はモノマネなどのネタで少し知っている程度なのですが、それでも問題なく理解できるような話題です。

ベースとしては言語(学)に関する考察が散りばめられていて、松任谷由実の有名な曲は「恋人はサンタクロース」か「恋人がサンタクロース」か、それによって意味がどう変わるか、という議論が僕には印象的でした(「は」と「が」の違いを言語学者同士で議論し始めると、終わらなくなるそうです)。(広報委員 田代 健・地球堂薬局)

「不確実性」超入門

田淵直也 著 (日経ビジネス人文庫/2021)



2016年に刊行された本ですが、コロナショックなどをふまえ大幅に加筆の上 文庫化されました。新型コロナウイルスによるパンデミックの発生により、当たり前だと思っていたものがそうではなかったと多くの方が実感されたのではないのでしょうか。

SNSの普及やAIなどの技術革新、様々なイノベーションが急速に進んでいるのに、むしろ不確実な時代に向かっていると感じるのはなぜか? 不確実な出来事に私たちはどう対処していけば良いのか? 超入門というだけあって非常に分かりやすく説明されています。著者は投資や金融のプロなので、それに関連した内容もありますが、投資などに興味がない方でも、不確実性に対する理解は「想定外の時代」を生きるために役立つのではと思います。今だからこそおすすめしたい一冊です。

(広報委員 酒井 清貴・なぎさ薬局あさか店)

コラム

本物は返してくれる



月食を見た。
マンションの間から、急に登ってきた月は、もう欠け始めていた。大きい。月食を見るのは、何回目だろか……。美しいなーと思う。

雲の間から、木星が、土星が顔を出す。隠れる前に望遠鏡でのぞく。木星の縞がかすかに、土星の輪がくっきりとこの眼で見える。本物である。

江戸城の天主台に立つ。この石垣は、黒田長政が築造したというが、一つひとつの巨石を切り出し見事に組み上げた石工の姿が浮かんでくる。

そう、妄想である。この妄想がたまらない。
(広報委員 小暮 眞一郎・アサヒ堂薬局)



俳句を楽しむ



松永 仁淡
(名誉理事 松永仁)
松栄堂薬局

穏やかに歳を重ねて初詣

丸刈りの庭木に雪のベレー帽

椅子二つ今日は一人の日向ぼこ

夕立が土の匂ひを叩き出し

編集後記・青年部発足



この12月で新型コロナウイルスワクチン接種支援事業が、一つの区切りを迎えました。ご協力をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

その中で、一緒に業務に入った若手の薬剤師の方々から、「今回の事業は、普段接触のない同世代の薬剤師との意見や情報を交わすことができ大変有意義な機会でした。」という感想が数多く聞かれました。そこで若手の薬剤師が、同世代の薬剤師と普段から意見や情報を語り合えるような関係を築ければと考え、それに賛同してくれた、なぎさ薬局朝霞店酒井さん、アトム薬局江口さん、アカネ薬局永田さん、星野さん、かくの木薬局上妻さん、かくの木菅沢薬局高尾さんとともに、青年部を発足させることにしました。

勉強会などお互いの学力を高めるのもよし、BBQ、ボーリング大会、ゴルフ等々レクリエーションで楽しい時間を共有するのもよし、とにかく、お互い気軽に意見、情報交換ができるような部会にしたいと思っています。興味のある方は、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

(理事・広報委員長 細川 玄機・三原薬局)

青年部案内チラシはHPにも掲載されています。会員、非会員、職域も問いません。同僚やお知り合いの薬剤師さんにもぜひお声がけください。

青年部
参加申し込み➔



(一社) 朝霞地区薬剤師会

TEL : 048-483-4125

FAX : 048-483-4126

E-mail : asaka-ph@asakaph.or.jp